

令和5年度

第2回静岡市立清水看護専門学校関係者評価会議 議事録

日 時 : 令和6年3月14日(木) 15時30分~16時30分
場 所 : 静岡市立清水看護専門学校会議室
司 会 : 事務長 志田訓広 書記: 稲川由美 井出見也子
出 席 者 委員長: 水谷美由紀 委員: 櫻井郁子
欠 席 委員: 渡邊昌子 塚本尚代
教 職 員 校長: 上牧 務 副校長 佐野繁子 事務長 志田訓広
事 務 辻 愛子
看護学科 教 務 長: 和田 愛 教務主幹: 加茂川将美
教務主幹補: 松本めぐみ 中村卓樹 玉木恭子
看護教師: 木下真理子 今井弓珠 西谷沙紀 亀山美穂 高野祐志
坂本希世子 井出見也子
助産学科 教 務 長: 池村さおり
看護教師: 稲川由美 山本智美 深澤絵里

< 校長挨拶 >

皆さまの専門的な知見からご意見をいただきたい。

今日は、よろしくお願ひしたい。

< 評価委員 > (自己紹介略)

水谷美由紀委員長 (静岡市立清水病院看護部長)

櫻井郁子委員 (公益社団法人静岡県看護協会常務理事)

渡邊昌子委員 (静岡県訪問看護ステーション協議会会長) 欠席にて意見事前送付

塚本尚代委員 (清水看護専門学校後援会会長) 急用にて欠席

司会 (事務長)

本校の職員を紹介する。

< 職員自己紹介 >

佐野繁子 (副校長) 志田訓広 (事務長) 和田 愛 (看護学科教務長) 池村さおり (助産学科教務長) 加茂川将美 (看護学科教務主幹) 松本めぐみ (看護学科教務主幹補) 中村卓樹 (看護学科教務主幹補) 玉木恭子 (看護学科教務主幹補) 木下真理子 (看護学科看護教師) 今井弓珠 (看護学科看護教師) 西谷沙紀 (看護学科看護教師) 亀山美穂 (看護学科看護教師) 高野祐志 (看護学科看護教師) 坂本希世子 (看護学科看護教師) 井出見也子 (看護学科看護教師) 稲川由美 (助産学科看護教師) 山本智美 (助産学科看護教師) 深澤絵里 (助産学科看護教師)
辻 愛子 (事務主査)

司会（志田事務長）

静岡市付属機関実施条例第7条の規定により、渡邊委員の事前に頂いた意見をもって委員の過半数とし、今回の会議を成立とする。

では、ここから議事の審議に移らせていただく。水谷委員長に司会進行をお願いしたい。

水谷委員長：それでは令和5年度自己点検自己評価最終結果の報告をお願いしたい。

1 自己点検自己評価の最終報告 事前配布資料参照

佐野副校長：事前に配布した自己点検自己評価の最終結果について報告する。今年度の自己点検・自己評価委員会の目標は、①求める学生の確保に向けて2学科あるよさを活かした本校の魅力の情報発信を強化、②多様な価値観をもつ学生の社会性および職業としての倫理を育む、③学習環境を整備することの3本である。これらを挙げて中間評価以降も全職員で取り組んできた。先に送付させていただいた資料が、学校職員で評価した自己点検・自己評価の結果である。表紙の裏に最終評価の結果が入っている。中間評価より変化した項目は教育環境で、評価点平均が3から4となった。

3つの目標に沿って中間評価以降の主な取り組みについて報告する。

求める学生の確保に向けて、情報発信を強化した。10月には「祝！地域交流看学祭～笑顔いっぱい楽しもう～」をテーマに開催した。4年ぶりの開催であったが、時間前から並ぶほどの来場者があった。学生の普段見られない姿、学生も来場者も笑顔があふれていた。学生から本校のPRポスターを募り、14作品のエントリーがあった。来校者にも投票を得て優秀作品が決まったので、広報に活用していく。学生による相談ブースにも、多くの来場者があった。学生の発案で介護タクシーの展示や障がい者施設のコーヒーショップの協力を得た。教員が本校のゆるキャラである“しみかんちゃん”の着ぐるみを作成し、とても人気でPRに活用したいと考えている。シズラとのコラボレーションをして情報発信を行った。

看護学科ではボランティア活動を通してPRを行った。11月には、上下水道局が行った活動に学生が参加し、手浴を実施した。教員も近隣高校のマラソン大会に救護者として参加した。3月には静岡マラソンに34名が参加した。これらは、学生にとって、さまざまな年代の方とのコミュニケーション、主催者の意図を理解した対応など学生の社会性を育む機会になっている。3月末に、第3回学校説明会をリモートではなく学校で開催し、43名の参加予定である。学生発信のインスタグラムの運営に向けた準備に時間がかかり、次年度の運用に期待している。これらの情報発信の強化により、入学試験の応募者数は微増し、入学試験方法の変更と周知により、合格者数は推薦28名、一般21名を確保した。県東部地区からの志願者が増加している。二次募集は行わずに済んだ。入学後の状況について注目し、本校を選んだ学生の育ちを支援していく。次年度に受験する高校3年生は新カリキュラムで学び、評価の仕方も大きく変更しているため、情報を収集しながらレディネスの把握に努め、新カリキュラムに対応した科目を示していく。引き続き、学生・教職員一丸となって本校の魅力を高めていく。

助産学科では、情報発信の結果、入学試験応募受験者が、推薦20名、一般19名と昨年同様であった。計画的に平日に学校説明会を実施したこともあり、臨床経験がある受験者も見受け

られた。分娩介助 10 例を保障するため、病院と産婦人科の担当者と指導體制の整備と実習時間や実習期間を延長する協力をいただいた。年内に 4 名の学生が 1 例を補い、10 例に到達した。次年度は、実習させていただいていた産婦人科が分娩を扱わないこととなった。指導體制の関係もあり実習受け入れ方法の変更も生じる。7・8 月のみ受け入れていただく 1 施設の実習施設変更申請を提出しており、先日承認を得た。引き続き、実習目標達成に向けて調整を重ねていく。

2 学科あるよさを活かした取り組みについて、今年度は、助産学科の学生が健康教育演習の授業の一環として、看護学科 1 年生に性教育の講座を行った。事前に 1 年生のレディネスを把握するアンケートをとり、助産学生として伝えたい内容を融合した実践から多くの学びを得た。看護学生にとっても知識はもちろんキャリアを考える機会にもなった。昨年度に引き続き、助産学研究発表への参加や助産学科の学生と助産師に関心がある看護学科の学生との交流会も行った。新たに、新カリキュラムとして看護学科の 2 年生の母性看護の方法 I の授業で、ともに女性を支える助産学科の学生と合同シミュレーションを取り入れた。2 月に今まで学習した 1 人の女性の妊娠から産褥までの経過に合わせた看護を、家族をふまえて計画し、実践した。助産師との関わりに戸惑っていた学生が、助産学科の学生と一緒に計画を考え実践する姿に変化し、協働について知識としてではなく体験から学ぶ機会になっていた。2 学科あるよさを活かした実践は、学校の魅力であり PR していく。

次に、多様な価値観をもつ学生の社会性及び職業としての倫理を育む取り組みである。社会性を育む取り組みは、新型コロナウイルス感染症が 5 類となり、看学祭やキャリアを考える行事、ボランティア活動が広がった。昨年度より多様な世代や職種と交流する機会が増えた。何を求めているか考え対応する力、ハプニングに建設的に対応する力を磨く体験を得た。

職業としての倫理を育む取り組みでは、今年度より看護学科では実習評価において、ルーブリックの観点に今まで内在していた倫理を評価項目として全領域の実習で取り上げた。新カリキュラムでは、1 年生の看護の方法で倫理を視点に事象を見つめる授業を行い、2 年生でリフレクションに焦点をあてた実習を行った。患者のひとつの反応や自分の感覚ではなく、倫理原則の視点を使いながら、仲間同士、指導者や教員とのやりとりからも対象者にとっての気がかりの意味を振り返る機会になった。今後の成長をみていきたい。

倫理に関する学習として、市が行っている倫理の研修の受講、日本看護学校協議会主催で開催した看護師養成所におけるハラスメント防止の受講、両学科の教員で市の看護専門学校の倫理指針を見直す学習会を行った。

今年度は、新型コロナウイルス感染症が 5 類へ移行したこともあり、看護学科は学習会を利用した学内での事例検討にとどまらず、清水病院の臨床指導委員会で臨床指導者と一堂に会し、事例検討を 2 回行った。事例検討でとりあげたのは、実際の学生との関わり場面である。車いすの安全ベルト装着に関するインシデントが続いたため、1 例を学生の立場から考えた。また、患者紹介を終え、創処置を見学した学生が受けもち変更を希望した学生への対応について、マインドマップの手法を用いて検討した。学生、指導者、教員、患者の各々の立場から考えることになった。指導者・教員が感じ取った、学生が患者を受けもつ責任や、学生を受け入れて

いただいた患者への申し訳なきなど、当初は見えなかった葛藤や、学生の思いなどに対する気づきがあった。他のグループのマップを見てから行った意見交換では視点が広がり、職業倫理が育つ関わりについて指導者と教員がともに考える機会は貴重であった。今後もこのような学習会を継続していきたい。

最後に、学習環境の整備の取り組みについて。課題であった空調設備の修繕は、2～3月にも4部屋を行っている。8月の修繕を含め、学生の利用率が高い部屋から進めた。年度末の学生アンケートでは、学習環境の満足度が高まっていた。安全を守るための防火シャッター、内壁の修繕は一部に留まっている。次年度は、空調修繕とトイレ部修繕の予算を確保したため、優先度を考慮して計画・実施していく。

看護学科では、グーグルクラスルームの活用により、学生との情報交換の選択が広がっている。購入したバイタルサイン人形は演習で活用できているが、経年劣化や故障による修繕の費用捻出に苦慮している。次年度は、模擬患者を一部の演習に導入予定で、シミュレーションモデルも購入予定であり、効果的な活用への準備を行っていく。助産学科では、清水病院に今年度設置されたシミュレーター「シムママ」を借用し授業に活かした。母児救命の演習で、分娩後子宮収縮が弱く出血増加する褥婦への対応の場面では、学生は予測した観察が不足し動けず、褥婦の状態は変化していった。ファシリテーターの支援で、観察の視点をもち対応を考え行動し、振り返りから予測した観察や自分ができることを考え対応する必要性を学んだ。後半の実習ではショックインデックスを活用した観察やアセスメントなど学びを活かしていた。これらの取り組みを講師会議・実習指導者会議で報告した。今年度は、指導者会議の中で、母児救命の授業を指導者がシミュレーションモデルに触れながら体験する機会を設けた。ベテラン助産師の判断や対応と学生との違いを伝え、授業の学びを活かした実習の実際を伝えた。指導者の関心は高く、学内の講義・演習と実習を結び学生の学びを実習の場で支援していただくひとつになったと考える。来年度は、両学科の学生全員が電子テキストを使用し、iPadまたはパソコンを持つため、今までの紙媒体から電子情報に変更を考え学生便覧・講義要綱などの準備をしている。印刷に使用していた費用を、他に有効利用していきたいと考えている。

中間評価で学生の環境整備だけでなく、教職員が働きやすい環境整備について示唆をいただいた。看学祭では教職員Tシャツをつくり、親睦を深め、教職員の新たな姿も見えた。専任教員養成講習会2名修了、休職中の職員の復帰とそれぞれの力を発揮している。在宅勤務の可能性を探る取り組み、学外勤務中の情報共有や戻ってからの仕事の負担を軽減する環境整備が可能か、担当部署とやりとりを始めている。紙と電子の重複の整理や学生優先で手つかずである職員室の空調の未整備が課題である。両学科と事務職員がひとつの場になったよさを引き続き活かし、教職員が働きやすい職場環境に努めていきたい。

2 意見交換

水谷委員長：令和5年度最終評価結果を聞いて、質問やご意見があればいただきたい。

櫻井委員：項目Ⅱ学校運営について、以前より評価が低かった空調がようやく修繕されよかった。

教職員の働き方の見直しとして、在宅勤務の可能性が挙がっていたが、なかなか難しい現状が

あるのではないか。実習場所が広がっていく場合、清水病院のように学校と隣接していればよいが、実習後に再度、学校に戻る必要がある際には時間のロスや、移動が負担になることもあると考えられる。その点について検討いただければよいと思う。

志田事務長：働き方改革として、市の制度に早出遅出勤務がある。7時～21時45分の中で7時間45分を勤務するものである。現在、年間を通じ2人の職員が利用している。実習中などは業務内容に応じて対応している。在宅勤務は、10月から1名の職員が行っている。実習施設から市政PCを使用する業務については、市のモバイルワークというシステムがあり、在宅勤務でも利用が可能か調整しているが、通信環境の整備が課題となっている。

櫻井委員：項目Ⅲ教育活動において、直接外部講師に授業内容が国家試験とどのように繋がるのかと質問する場面があった点について注目した。国家試験は教育の目標のひとつであるがゴールではない。学生には授業が看護にどのように繋がるのかを考えてほしい。新人看護師も国家試験に合格し、就職したことをゴールと捉えてしまうと、さらなる新しい知識や技術の習得を困難と感じて挫折を感じる者もいる。国家試験はゴールではなくあくまでもスタートという意識をもってほしい。

和田教務長：上記は生物学の講師への質問である。なぜ学生はそのような質問を講師に聞いたのかと疑問に思う。一方で、教員も「国家試験対策」という言葉を用い過ぎている可能性がある。学校を国家試験合格のための塾ではない。医師や薬剤師など他の国家試験とは異なり、なぜ教師がここまで支援しなければならないのか。学校に入れば国家試験に受からせてもらえると考えているのではないか。教育成果を数値で評価する指標に国家試験合格率があるのも事実である。国家試験の合格率100%を目指しているが、本来はディプロマポリシーを軸に教育していきたいという教員のジレンマがある。学生は、学ぶ目的を合理的に理解できると学びにつながるが、目的意識がないと学ばないようなところが見受けられる。基礎科目を学ぶ理由や大切さについてガイダンスで伝えていく必要がある。

櫻井委員：Ⅳ卒業・就業・進学において、80%の学生が静岡市内に就職、1名が助産に進学している。学生が次のステップに進んでいける環境づくりが大切であり、助産学科の学生が看護学科の学生に授業をすることもそのひとつとなり、2学科ある魅力といえる。

加茂川教務主幹：45名の卒業生のうち、進学した1名を除き、80%の36名が静岡市内に就職が内定している。その他、県内に4名、県外が4名である。

櫻井委員：項目Ⅴ学生支援において、学生との面談はとても大切だと思う。面談内容は面談記録において教員間で共有したとあるが、学生に共有の事実を伝えているのか。内容によっては面談者以外には伝えないで欲しいこともあるかもしれない。指導等の際、共有した事実が学生に伝わってしまう可能性もあるが、どのように考えるか。

木下教員：学生支援の面談内容について教員間で共有してよいかは学生に確認しているが、全体に伝えている点で欠けていた部分がある。

稲川教員：助産学科でも、学生面談の際は内容を他の教員と共有してよいか確認している。共有を望まない場合でも、学生の指導において教員間での共有が必要と判断した場合は、共有することもある。その際は学生の不利益にならないように対応には配慮している。

櫻井委員：最近の傾向として SNS が発達している。以前研修生との関わりで内容不足を指摘した際、「こんなことを言われた」と SNS で広がったことがあった。学生の面談内容についても、気をつけなければハラスメントと言われてしまう可能性がある。細やかな対応が必要である。

櫻井委員：項目Ⅹ社会貢献・地域貢献において、地域のイベントなどに学生・教員が参加していることは素晴らしい。主たる実習病院が地域に根差した病院を目指しており、清水看護専門学校で育った力が活かしている。地域社会に貢献していく活動はぜひ続けてほしい。

項目Ⅺ教育力の向上において、学校の倫理指針を見直すとあるが、看護倫理は意識の定着が難しい。初めて体験したときには意識が高まるが、葛藤が少しずつ薄れてしまう。現場の看護師にも起こりやすいため、リフレクションを繰り返して、意識の定着を図ってほしい。

助産学科の項目Ⅳ卒業・就業・進学において、卒業後のアンケートの回収率が低い点だが、社会人が進学しているため看護学科から進学する学生と比べて学校への思い入れが低いのかかもしれない。卒業前にアンケートの目的は次の学生のために活かしたいという説明を行い動機づけを高めると協力を得やすいと思う。

助産学科の項目Ⅸ法令遵守において、分娩の減少により正常分娩の必要数が介助できないという問題があり、実習で苦慮していると思う。日本看護協会が行っている ClocCMiP（助産師クリニカルラダー）の認証を受けるために必要な分娩介助数があり、病院側としては臨床の助産師にも、実習を受け入れている助産学生にも分娩介助させたい、という葛藤がある。1人の患者に2人の学生で関わるなど工夫しているという話も聞いた。少子化により今後分娩数の増加は見込めず、状況が良くなることは望めない。分娩件数にはならないかもしれないが、シミュレーション教育を取り入れていく方法もよいのではないかと。大変だと思うが頑張ってもらいたい。

水谷委員長：Ⅱ学校運営のグーグルクラスルームについて、どのような活用をしているか。

井出教員：1年生に行った形態機能学Ⅳの入浴、看護の方法Ⅴの清潔の講義・演習でグーグルクラスルームを用いた。事前の資料配信や、課題のやり取りを行った。ジャムボードという学生が自由に書き込みや付箋をつけられる媒体を用いて心理的・社会的な意味も含めた清潔の意義について考え作成を促した。課題を返却する際は、学生の気づきにコメントを返し、それに対する学生の返信を受けた。演習で説明しきれない知識の補足にも使用した。その他に看護協会の機関誌に掲載された温タオルによる熱傷事例のコラム、YouTube のニュースの入浴に関するヒートショックの動画、高齢者の健康に関する書籍、の中から選択する課題を冬休みに行った。紙面上のやり取りもよいが、うまく媒体を使えるとコミュニケーションを含めタイムリーに活用できる。

水谷委員長：項目Ⅱ学校運営において、ハラスメントに関する記述があるが、これは患者に対するものなのか。ハラスメントを取り巻く問題は院内でも大きな問題となっており、看護師は患者から受けるハラスメントを我慢してしまうことが多いが、我慢するものではないということや学生時代から教えていく研修を意図しているのか。

佐野副校長：ハラスメントについては、学生を対象にしたガイドラインを作成した。学生自身がハラスメントを行わない、仲間がその場面にあった時に気づいた自分はどうするか、また自分が受け手になった時の相談先等の道筋も見えるようなガイドラインを作成している。来年度の

学生便覧から紙面に乘せて活用していく。

水谷委員長：項目Ⅲ教育活動において、倫理観を育てる努力がよくわかる。その結果、実際に学生の倫理観が育っていると感じる具体的な言動、場面などはあったか。例えば、病院では職員に倫理観を問うと答えることができるが、実際の行動が結びつかない現状がある。行動に結びつけられるようになるまで教育するのが病院の役割と思っているが、なかなか難しい。

松本教務主幹補：今年度から、実習における倫理について評価表に組み込んだ。3年生にはすべての実習において「看護の対象や仲間の尊厳・安全を守るための行動をする」という項目を追加した。3年生はコロナ禍での実習の経験から、相手の安全のために自分がどのように行動したか、という思考による表現が多かった。相手に感染を広めないために早く報告する、といったことに焦点があてられていた。

新カリキュラムでは「倫理原則に基づいて患者さんの権利ということを考えて最良の方法で援助を実施していく」を掲げており、倫理に関する項目は低学年から各実習に含めている。倫理原則に基づいて自分の看護援助を振り返る体験をしていく中で、対象者の尊厳・人権が、守られているのかという振り返りをする姿勢・表現が多くなってきている。3年生の実習でどう表現されていくかが楽しみである。倫理的な視点が備わっているのかということの評価しながら実習していきたいと考えている。

水谷委員長：項目Ⅳ卒業・就業・進学において、「卒業生・在校生の社会的な活躍状況を把握しているか」の評点が3点であるが、どのような把握の仕方をしているのか。また、4点にするための工夫があれば教えてほしい。

佐野副校長：卒業生の活躍や動向を把握するのは難しく、アンケートの回答率も低い。実習場で卒業生の状況を把握する、看護部との共有を図る際に情報を得る、卒業生が来校した際などに活躍状況を把握している。また、病院に協力していただき今年度初めて行ったホームカミングデーも参加率が高かった。卒業生の状況把握の機会として活用したい。

水谷委員長：項目Ⅵ教育環境の防災訓練に関して、実際に発災した場合、学生はどのような行動をとることになっているのか。もちろん第一は避難であるが、例えば病院で何か学生に手伝ってもらえるような体制などはあるか。

松本教務主幹補：災害が起きた際の実習については、特に看護学科では実習施設も多く、津波が起きやすい環境にある施設も多い。各実習施設で災害時の対応方法を確認している。施設の状況に応じた行動について学生便覧で学生とも共有している。またグーグルクラスルームを利用し、実習で外部の施設に出向く際にも、教員とすぐに連絡が取れるシステムを作っている。

志田事務長：災害時の学生の対応については、市の防災計画では明確にされていない。災害時のボランティア活動としてどういった対応が取れるのかは検討していく必要があると考える。

水谷委員長：項目Ⅹ社会貢献・地域貢献において、地域のボランティアなどに参加していることはとても良いことだと思う。静岡マラソンのボランティアに参加した知人の話では、多くのボランティアが、支持者の号令がないと行動できない中、主体的によく活動している人たちがおり、それが清水看護専門学校の学生だったと聞いた。地域で立派に活躍しており素晴らしいと感じた。

佐野副校長：本日都合により欠席された渡邊昌子委員より、事前にご意見と質問をいただいているので紹介する。

全体的に項目ごとに細やかな取り組みがされ、教職員の学校あげての努力が伝わってきた。最終評価として、自己採点されたものは妥当だと思う。評価3点としている看護学科への意見である。

項目Ⅰ教育理念・目標のホームページについては、学校に限らず、何度広報しても閲覧しない人がおり、この徹底は難しいと思う。しかし、ホームページの2か月に1回更新等、学生・保護者への伝達・広報活動の努力がみられる。重要な媒体であり、これからはICT活用の時代であり、引き続き繰り返し学生・保護者へホームページの重要性、活用など啓発して欲しい。

項目Ⅱ学校運営について、情報が電子媒体に変更され、情報管理と業務整理につなげていくことに期待したい。学生だけでなく、教職員も積極的にICTを活用し、業務が軽減されることを心から願う。

項目Ⅳ卒業・就業・進学について、卒業生との交流は参加する人が限られるため、すべての人の活躍は把握しきれないと思うが、ホームカミングデーは社会での活躍等の情報が入手でき有効である。今後の教育に活かせる情報が期待できる。

項目Ⅺ国際交流について、学生が国際情勢に興味・関心をもつための国際交流や講義など様々な取り組みをしている。発展させ、国際的な学会や交流会等に参加できると4の評価になるのではないかと思う。

質問として項目Ⅳ卒業・就業・進学について1つ頂いた。学生80%が就職内定であるが、残りの20%の状況とここへの支援への手立てはあるか。

加茂川教務主幹：今年度卒業生の、就職希望者の就職内定率は100%である。第一希望ばかりではないが、全員希望した就職先に決まった。80%は静岡市内の病院への内定である。

司会（志田事務長）

委員の皆様からのご意見を次年度の運営に繋げていく。今後とも学校運営にご意見、ご教授をいただきたい。

議事録と最終結果を委員長に確認を得た後、送付する。第1回の会議で伝えたように、最終結果と委員の氏名について公表させていただくので、ご了承下さい。

次年度は第1回を10月10日（木）、第2回を3月13日（木）、いずれも15時30分より開催予定である。委嘱依頼文書を3月に送付するので、引き続きお力添えをお願いしたい。

以上

令和5年度学校関係者評価最終結果

1 自己点検自己評価最終評価点

	点検項目	評価点（中間）	
		看護学科	助産学科
1	教育理念・目標	4（4）	4（4）
2	学校運営	4（4）	
3	教育活動	4（4）	4（4）
4	卒業・就業・進学	4（4）	4（4）
5	学生支援	4（4）	4（4）
6	教育環境	4（3）	
7	学生募集	4（4）	4（4）
8	財務	4（4）	
9	法令の遵守	4（4）	4（4）
10	社会貢献・地域貢献	4（4）	
11	国際交流	4（4）	
12	教育力の向上	4（4）	

2 評価結果

点検項目	自己点検自己評価結果	学校関係者評価結果 (3月14日現在)
(1) 教育理念	<p>【看護学科】</p> <p>新カリキュラムや新しい講師を迎え、基礎科目と育てたい学生の姿・専門科目のつながりを説明しながら、授業内容の依頼をした。</p> <p>清水病院臨床指導者会議では、ディプロマポリシーに照らした事例検討を行い学生の学びの過程を共有した。学年ごと身につけたい力を具体化し、今後の実習上での働きかけについて指導者と理解しあえた。</p> <p>保護者の学校の理念についての理解度は、「だいたい理解している」を含めどの学年も9割であった。ホームページの更新は2か月に1回程度行った。保護者アンケートでは、「ホームページから必要な情報が得られているか」について、学年が上がるごとに数値は93%から66%に下降しているが、「ホームページを確認していない」数値は、37%から45%に増加している。学内関係者向けだけではないため、学校の宣伝になることに偏るが、低学年と3年生では得たい情報が異なることが予測できた。低学年の保護者に</p>	<p>教職員が学校の将来構想を抱いている項目が、ほぼ、になっている理由に注目して、自己評価の内容を継続して欲しい。</p> <p>ホームページを2か月に1回更新する等、学生・保護者への伝達・広報活動の努力がみられる。引き続き学生・保護者へホームページの重要性、活用の啓発をして欲しい。</p>

	<p>は、学校の様子が知れるようなホームページアップの継続の必要性があると感じる。高学年に対しては個別に相談窓口をもうけるなどが必要とされることが想定でき、現在、学年担当中心に行っている面接を継続する。</p>	
	<p>【助産学科】</p> <p>助産学科の学生に、入学ガイダンスや講義開始時にディプロマポリシーの項目と講義との関連性を学生に伝えた。講義終了時の授業評価のアンケートは、評価4が「非常にあてはまる」評価3が「だいたいあてはまる」という基準であるが、「ディプロマポリシーを意識できる内容であった」という項目の平均評価は3.5であった。実習では「目的・目標に沿った実習であった」という平均評価が3.8であった。助産学科の学生がディプロマポリシーを理解し、講義・実習に取組めたと考える。</p> <p>講師には講義の依頼時・講師会議時に、実習施設には年2回の実習指導者会議時にディプロマポリシーと結び付けて学生に学ばせてほしい内容と共に伝えた。前期に終了した科目の学生の授業評価を7月に講師に伝え、講師会議の出席依頼時に再度授業評価を伝えた。2月の講師会議のアンケート結果より、ディプロマポリシーの周知は88.5%、教育目標を踏まえた講義ができたかについては53.8%であった。講師会議では引き続きディプロマポリシーを伝え、教育内容に活かしてもらえるよう報告した。今後は講義要綱に教育理念・アドミッションポリシーも掲載し、ディプロマポリシーとの繋がりを示していく。実習指導者には、実習指導者会議や打ち合わせ時にディプロマポリシーを伝えている。今後は周知状況の確認方法を検討していく。</p>	<p>学生が科目の到達を理解して学習できるような働きかけを継続して欲しい。</p>
<p>(2) 学校運営</p>	<p>4月より新たな事務長、専任教員1名、専任教員養成講習会に2名受講し、その5～12月は会計年度職員2名の協力を得た。看護学科では新旧カリキュラムの運営と1人体制での学年担当、助産学科では分べん介助件数確保のための実習調整、事務では施設環境調整など業務が増える中で学校運営であった。役割の進捗状況の情報共有や意見を求める機会として、朝礼・夕礼、会議、職員パソコンの閲覧機能を継続して活用している。看護学科では、教員間で学習状況の共有にグーグルクラスルームも加わり、方法の選択肢が増えた。今年度より共有フォルダ内の名称を整理し、情報共有の効率化をすすめている。昨年度末に職員室の配置替えを行ったことも加わり、事務職員・両学科看護</p>	<p>情報交換しやすいよう職員室の配置を工夫し、安定した学校運営ができていることを評価する。</p> <p>実習場で指導するのが看護基礎教育の特徴でその場が学外の多岐にわたる中で、情報が電子媒体に変更され、教職員も積極的に活用し、情報管理と業務整理につなげていくことに期待したい。</p> <p>倫理教育の取り組みを評価す</p>

	<p>教師の互いの状況を把握しやすい環境になってきている。教職員がオリジナルTシャツをつくって看学祭に参加し、親睦を深める機会にもなった。働き方として、早出遅出勤務を活用するとともに、業務内容や状況によって在宅勤務の可能性を探る取り組みをはじめた。実習指導で外部にいる間の看護教師とタイムリーな情報共有と学校に戻った後の仕事の負担を軽減するための環境整備に向けて、担当部署とやりとりをしている。専任教員養成講習会を終え新たな風も加わる中で学校運営を行えている。</p> <p>今年度は、教員間で職業倫理を育む、市立看護専門学校の倫理指針に注目した学習会を行い、引き続き市が行っている倫理に関する研修を受講した。主たる実習病院と指導者会議を利用して場面をあげて学生理解を深め、介入の検討を行った。学生には、今まで業者から提供されたパンフレットを活用した説明に加え、10月に作成したソーシャルメディアガイドラインを示した。看護師等養成所の運営に関する指導ガイドラインの一部改正を受けて、ハラスメント防止ガイドラインを作成した。2つのガイドラインを学生便覧に示していく。</p> <p>次年度も、新たな職員を迎えての学校運営となるため、目指す姿と個々の強みを情報共有しながら、建設的に対応していく。全学生が電子媒体をもつため、情報を紙から電子に変更をしていく予定であり、情報管理をしながら、業務整理にもつなげていく。</p>	<p>る。学生自身がハラスメントをしないに加えて、他者からハラスメントを受ける可能性とその対応を知ることは実習においても意味があるので、活用して欲しい。</p>
<p>(3) 教育活動</p>	<p>【看護学科】</p> <p>3年次に新しく時間数が変わるものについて、学習会を通して検討を行っている。講師の選定をし、次年度より授業ができるよう準備を整えた。統合カリキュラムについて、学内の教員だけでなく、模擬患者を外部に依頼するなど地域の資源を得て、連携し学生を育てられるように計画している。</p> <p>基礎科目について1年生から直接外部講師にこれが国家試験とどのようにつながるのか質問をする場面があった。ガイダンスだけでなく、開講時期に合わせ、説明した。外部講師とは、その後に関係の強い専門科目にどのようにつながるか、学習の成果を紹介し、次年度からの授業の依頼につなげている。</p> <p>今年度より倫理について全領域で実習評価項目に追加している。1年時に倫理原則に基づき看護を振り返る授業を受けた後、2年生でリフレクションの実習を実施してい</p>	<p>学生が目指す姿を描いて学習していけるよう、目標の明確化や内容の精選など継続して取り組んで欲しい。</p> <p>電子テキストを活用しているが、資料について電子または紙媒体がよいか、学生のニーズを把握した対応を継続するとともに、学習環境の整備も合わせて取り組んで欲しい。</p> <p>学生が看護の本質を学び活かす力を育て、国家試験合格はゴールではなく看護師として働くスタートであるとモチベーションがもてるよう教育して欲しい。</p>

	<p>る。対象者にとって実践を振り返ることをしていた。今後の成長を追ってみたい。</p> <p>2年生は新カリキュラムとなり、成人看護学は、映像による患者を紹介し、話し合う時間、演習時間を増やし、実践的な内容としている。母性看護の方法Ⅰでは、ともに女性を支える立場である助産学科の学生と合同シミュレーションを取り入れた。それまで学習してきた1人の女性の妊娠期から産褥期の看護を夫や児を含めた看護の実際から、助産師との協働について学んでいた。</p>	<p>看護学科の学生に助産学科の学生が学びを伝えていく取り組みは、2学科あるよさであり、助産師を目指したい思いを刺激する機会となるため、継続して欲しい。</p>
	<p>【助産学科】</p> <p>講義では学生の特徴や学習の様子を講師に伝えた。</p> <p>実習においては、実習指導者会議や実習前の打ち合わせの機会に、各実習施設に学生の学習の状況と指導して欲しいことを伝え、学生の学びが統一できるようにした。2月22日に行う第2回実習指導者会議では、清水病院で新たに導入した全身分娩シミュレーターを使い、学生が講義・演習にてどのような学びをして実習に臨むか理解してもらう予定である。</p> <p>講義・演習にシミュレーターを取り入れたことにより、より実践に近い学びを提供し、講義と実習をつなぐことができた。学生からも、「講義・演習が実習での母体急変時の判断・対応に活かされた」と評価が得られた。実習においての、分娩介助状況・目標到達進度・学生の振り返り・学びを教務会議にて共有することにより学生対応や、実習調整が効果的に行われた。研修にて学んだ知識を教員間で共有した。その結果、演習や講義にシミュレーション教育を生かした実践に近い学びを提供していく工夫を考えることができた。今後も継続していく。</p> <p>本校に学科が2つある良さを活かし、看護学科の1年生を対象に性教育実施した。また、助産学科の研究発表に看護学科の学生が参加し、助産学科の実習の様子や学習を知ることによってキャリアを考える機会となった。</p>	<p>自己評価の内容を継続して欲しい。</p>
<p>(4) 卒業・就業・進学</p>	<p>【看護学科】</p> <p>1年生：実習に向け業者によるマナー講座を実施した。人と出会った際の第一印象の大切さや看護学生としての態度、言葉遣いについて考える機会となった。大学編入希望があった学生には個人面接等で最終的な編入希望を確認したうえで具体的な支援を行っていく。</p> <p>3月4日に1年生を対象に6施設の就職説明会を計画している。就職施設を決定するために参考となればと考える</p>	<p>卒業生との交流は参加する人が限られるため、すべての人の活躍は把握しきれないが、ホームカミングデーは社会での活躍などの情報が入手でき有効である。今後の教育に活かせる情報が期待できるため、継続して欲しい。</p>

<p>が自らインターシップに参加するなど積極的に行動できることを期待したい。</p> <p>2年生：業者による就職活動スタートアップ講座を実施、2月には3月からの就職活動にむけ願書の書き方等の講座を計画している。就職活動に積極的であり長期休暇を利用してインターシップに参加している。就職に向けて様々な講座が企画されており学生に紹介している。</p> <p>卒後1年目の卒業生30名ほどの参加によるホームカミングデイが実施された。様々な施設に就職した卒業生と交流し就職活動や国家試験に向けての学習について情報を得られる機会となった。</p> <p>3年生：卒業認定された45名のうち、静岡市内の施設に80%の学生の就職が決定している。また、1名が当校の助産科への進学が決定している。</p>	
<p>【助産学科】</p> <p>学生が国家試験の問題に慣れるよう、5回の模擬試験の年間計画を立てて9月から12月に実施した。学生がいつでも勉強に取り組めるように8月までに助産師国家試験の過去問題集や参考書等を購入した。</p> <p>早まる就職試験に対応するため、入学の書類に就職先の希望調査用紙を入れ、早期からの支援につなげた。また、昨年度の就職試験の内容や今年度の募集案内を1冊にまとめ、学生に情報提供を行い就職活動を支援した。学生は7月末までに7名全員の就職先が決定した。(静岡市内3名、県中部地区3名、県外1名)</p> <p>4月に卒業生との交流会を実施し、実習や国家試験対策についてイメージできたという回答が多く得られた。今年度は学生の主体的な参加を促すためにも、交流会開催前に学生へ質問内容を確認後教室に掲示していった。退学者や退学を検討する学生はいなかった。</p> <p>卒業後のカリキュラム評価のアンケートを毎年行っているが、封書でもロゴフォームによる入力でも回収率が低い現状がある。学校での学びが臨床でどのように活かされているかを問うため、卒業後ある程度の時間経過が必要となり、アンケート入力に対する意識が薄れる可能性が考えられる。卒業前に学生の意識に残るよう協力を仰いでいく。</p>	<p>卒業後のカリキュラム評価に向けて学生からの回収率をあげるために、協力を依頼するのは後輩に活かすという理由を伝え、動機づけを強化していった欲しい。</p>

<p>(5) 学生支援</p>	<p>【看護学科】</p> <p>学生の日常の様子や学習状況から学生の変化をとらえ、学生の意思も尊重し学生相談室の利用につなげている。状況により教員側から相談室を利用し、スクールカウンセラーの助言を得ながら学生の生活支援に生かした。</p> <p>学生の進路決定に関し、主体的に早い段階から準備を進められるよう、学生への情報提供を適宜行った。</p> <p>学業において気掛かりのある学生は随時面談を行い、生活・学習環境の調整ができるようよう指導を行った。3年生では、国家試験を前に不安や緊張から学力が低迷する学生もあり、保護者との情報共有を行いながら、家庭でも学生を支えていただけるように協力を求めている。単位修得に関わる問題がある学生は、保護者との面談を実施した。保護者との連携をもって学習・生活支援が継続できるよう、面談内容は面接記録で教員間で共有し学生指導に反映させた。</p> <p>物価高騰の折、学生の経済的負担が大きくなっていることから、奨学金や授業料減免制度に関する情報発信を適宜行っている。また、教育訓練給付金は2名が受給しており、受給証明書を逐次発行している。教育訓練給付制度の対象となる専門実践教育訓練施設として10月に再指定手続きを行い、2月9日付けをもって「専門実践教育訓練講座」の指定校として令和6年度から3年間の継続が認められた。</p>	<p>学生相談も上手く活用しながら、学生支援を継続して欲しい。</p> <p>学校の様子など保護者が情報を得る機会を増やして欲しい。</p> <p>教員と行った面談内容の情報共有においては、共有したいと考えた理由および学生に共有可能な対象と内容の範囲について確認するなど引き続き丁寧に対応して欲しい。</p>
	<p>【助産学科】</p> <p>ディプロマポリシーと到達目標を講義要綱に記載するとともに初回の講義で説明し、学生への意識づけを行った。入学後に担任教師・実習担当教師との面談を実施し、学生の状況を把握し講義・実習の支援に役立てた。面談の時期については丁度よいと答えていた学生がほとんどであったことから、来年度も同様の時期に実施していく。4月末に卒業生との交流会を行い学校生活や実習のイメージがついたという意見が多く聞かれたため、来年度も継続していきたい。6月末までに多くの講義と演習を行う中で、他の学生と比較し自己肯定感の低下を招いた学生もいたが、学生が主体的に効果的な学習ができるよう個別に話を聞き、教師間で情報共有しながら学生に対して支援を行った。また学生相談の利用も促し、活用されていた。</p> <p>分べん介助実習は昨年度までは1施設に1グループずつ実習をしていたが、今年度より1グループが2施設で実習を</p>	<p>分娩介助実習後に集団カウンセリングの機会を設けていることを評価する。自己評価の内容を継続して欲しい。</p>

	<p>行うこととなり、1グループの学生3名が1名と2名に分かれローテーションで実習を行った。学生が互いの学びを発表・報告し共有できるよう、リモートを使ってカンファレンスを行った。リモートでのカンファレンスは通信環境が不十分であったため、来年度は実施場所など病院の協力を得ながら実施していきたい。</p> <p>入学後学生に教育訓練給付金制度に関して周知を図り、利用できる環境を整えている。</p>	
(6) 教育環境	<p>長年課題としていた空調修繕は、使用頻度が高い普通教室3教室等の空調を夏休みに修繕して室温環境改善を図ることができた。結果、学生の教室は常に26～27度で保たれている。以前のように、通年通して学生が個人扇風機の使用や衣類を調整しながら講義を受ける姿もなく、学生からは、「快適です、授業に集中できる」等の学校生活に支障がなくなったと声が聞かれている。</p> <p>また、タイル落下の危険性があった管理棟内壁タイルを優先度の高いところから修繕した。一部現在も使用不可能が継続中であり、学生の利用できる教室に制限が出ている。2～3月には基礎看護実習室・視聴覚室等の空調修繕を実施するなど、学生が安全に教育を受けられるよう、今後も優先度を勘案した環境整備を継続していく予定である。</p> <p>今年度はバイタルサインベビー人形を購入し演習で活用している。演習では直腸温の実測や、心拍に伴い変化する呼吸の観察など、より臨床に近い形で新生児の状況に合わせた学習ができている。学生からも「腹式呼吸がよくわかった」など体験からの学びが聞かれている。来年度の備品も計画的購入に向けリストアップしていく。また助産学科では、清水病院に導入されたシムママを活用し、実習前に緊急時の対応について演習した。学生からは、「状況設定がリアルでありイメージしやすい。助産診断に活用できる」と臨床判断力を育む学びへと繋がった。</p> <p>4月から看護と助産学科の職員室を一体化したことで、両学科のコミュニケーションが円滑となり、情報共有がしやすくなった。不用品の廃棄も継続して行っている。引き続き、学生の教育環境整備に加えて、教員が働きやすく生活しやすい環境も整えていく。</p>	<p>シミュレーターなどICTを活用した教育環境の整備に努めて欲しい。</p> <p>長年課題であった空調修繕が実施できたことを評価する。学生が学習しやすく、教職員が働きやすいために、引き続き環境整備に努めて欲しい。</p> <p>発災時学生の安全を守った上で、実習時学生に協力を求めたい。</p>
(7) 学生募集	<p>【看護学科】</p> <p>受験生が学校生活や卒業後の活躍がイメージしやすいように卒業生のメッセージも加えて作成した募集要項を活用し、高校訪問は前期49校・後期18校、進路説明・相談会</p>	<p>求める学生の確保に向けた取り組み、学生自治会のインスタグラム立ち上げに動き出していることを評価する。</p>

<p>は高校での実施が延べ 23 校・会場形式 12 回と昨年度より多く出向いた。また、学生の協力を得て、夏休みを利用して母校 14 校に訪問した。さらに、11 月には本校で見学及び説明を希望する高校 1 校を初めて招いた。</p> <p>5 月の聖火継承式は近隣高校に呼びかけ、4 名の参加があった。7・8 月のオープンキャンパスは人数制限なしで実施し。各 100 名前後の参加者が得られた。3 月末にも開催し、対面での実施することでより本校の良さを伝えられる工夫をしている。</p> <p>10 月には地域住民や高校生に開放した看学祭を実施した。シズラの X (旧 Twitter) を利用して広報活動し、地域の方は開場時間よりも前からお待ちくださる方もいるなど、学校の存在を知っていただく機会になった。看学祭のタイミングに併せて、教職員企画として本校の良さをアピールするポスター作成に取り組み、学生から 14 件の応募があった。作成したポスターは学生運用 SNS での発信に使用するなど、内外のアピールに活用していきたい。また、学校の PR のために教職員が学校のゆるキャラである「しみかんちゃん」の着ぐるみ企画にも取り組んだ。今後も継続していくことで、配布できるグッズの検討なども行い、より学校のアピールにつなげていきたい。</p> <p>学生運用 SNS に関しては、学生が書類や同意書などの作成ができるようにサポートした。</p> <p>さらに、高校が開催するマラソン大会に看護教師が救護者として参加、学生ボランティア活動として救急フェア・上下水道局の催し・静岡マラソンにも参加した。(仮称) 血圧測り隊については、救急フェア・上下水道ボランティア・静岡マラソンへの学業以外の学生の主体的な取組を活かして、令和 6 年度から活動開始ができるようにしていく。このように、学生と教職員が一丸となって学校の魅力を発信し、学生からは「一緒に頑張れて良かった」という言葉があった。</p> <p>入学者選抜については、入試方法見直しを周知し、推薦・一般入試ともに適正に実施した結果、推薦入試で合格者 28 名、一般入試で合格者 21 名を確保した。</p> <p>令和 6 年度は、募集要項を 300 部増刷して 1,400 部印刷する予定であり、高校訪問等の PR 活動において積極的に活用していく。</p>	<p>少子化が続くため、今後は高校生だけでなく、中学生や小学生への PR も考えていく必要がある。</p>
<p>【助産学科】 学校説明会が 7 月 1 日 (土) の 1 回のみのため、平日の</p>	<p>学生募集の取り組みを評価する。自己評価の内容を継続して</p>

	<p>学校説明会を開催した。6月5日(月)、7日(水)、15日(木)、21日(水)の4日間で8名の参加があった。アンケート結果では、「実際の演習や講義を見学することにより、学校生活を知ることができてよかった」等の意見があった。</p> <p>7月1日に実施したオープンキャンパスでは、45名の参加があった。32名のアンケートが集まり、「とても満足した」「満足した」の項目を合わせ100%という結果であった。今年度の入学試験では、推薦入試20名、一般入試19名の受験応募者を得ることができた。</p> <p>将来助産師資格を目指す看護師に対する助産学科の周知と学生確保に向け、募集要項を清水区役所に設置し、実習施設や近隣の学校を中心に配布し、ホームページ上で助産学科だよりを適宜更新した。近年、募集要項を看護学科の学校訪問の際に近隣の高校等へ配布しており、本校の助産学科の認知度が上がってきている様子がある。今後も募集要項を学科の周知のために配布していきたい。</p>	欲しい。
(8) 財務	<p>令和5年度歳入歳出について適正執行した。</p> <p>空調修繕については、8月に普通教室3教室等、2～3月に基礎看護実習室・視聴覚室等の改修を実施し、その他の教室等は、第4次総合計画に掲載して、計画的(3年間)に進めていく。また、管理棟内壁タイルや防火シャッターの改修を行うなど緊急性を重視して予算執行した。</p> <p>令和6年度予算要求にあたっては効率的な執行を目指して内容を精査したことにより、空調やトイレ改修等の施設修繕、看護実習モデル(ハイブリッドシュミレーター)等の備品購入、教育用パソコンリースなど必要な予算を確保した。更なる学習環境整備のために、中長期的視点で施設や設備の充実を図っていく。</p>	予算を確保し空調修繕がすすんだことを評価する。学生の学習環境、教職員の働きやすい職場環境は優先度が高い。引き続き予算確保に努めて欲しい。
(9) 法令等の 遵守	<p>【看護学科】</p> <p>静岡県養成施設等指導調査の準備・監査を7月に完了した。保健師助産師看護師養成所指定規則に準じてカリキュラムを運営し、正確な記録を残している現状について承認された。しかし、記録事項の重複が多く、整合性の確認に時間を要するため、スムーズなシステムが課題となっている。</p>	自己評価の内容を継続して欲しい。
	<p>【助産学科】</p> <p>今年度は主たる分娩介助実習施設の1か所が受け入れ中止となり、4施設から3施設となった。10例の分娩介助ができるよう、7・8月に新たに県立総合病院での分娩介助実習を実施した。3名の学生が県立総合病院と清水病院の</p>	分娩件数の減少により、病院の助産師にも分娩介助を行い育てたい状況の中で、苦慮しながら実習施設との調整を重ねていることを評価する。この現状は

	<p>2箇所に分かれ、ローテーションで実習を行った。分娩件数の減少に伴い学生が分娩介助ができる正常産が減ってきている中、県立総合病院では学生3名で13人の分娩介助を行うことができた。11・12月の清水病院での分娩介助実習は、学生3名のうち2名がローテーションで病院で実習を行った。残りの1名は産婦・褥婦の受けもちをしなくても、産褥指導のデモンストレーションを実際に実施する病棟で実施したり、ファントムを用いて病棟のLDRで分娩介助の練習を行うなどして規定の実習時間が確保できるようにした。</p> <p>また、学生1名につき10例の分娩介助ができるよう新たな分娩介助実習施設と次年度の実習調整を行い、実習施設変更承認申請を静岡県に提出した。</p> <p>次年度は、新たな分娩介助実習施設で実習を行い10例の分娩介助ができ、規定の実習が実施できるようにしていく。また、新たな実習施設の開拓と申請を行っていきたい。</p>	<p>続くと考えられるが、自己評価の内容を継続して欲しい。</p>
<p>(10) 社会貢献 ・地域貢献</p>	<p>学生ボランティアは、9月「救急フェア」、10月「上下水道局イベント」、3月「静岡マラソン救護ボランティア」など行政からの依頼には必ず応じている。実習施設などからの依頼もあり、参加人数は徐々に増え、授業では得られない社会経験につながっている。学内でのオープンキャンパスボランティアにも積極的に活動した。</p> <p>看学祭でも、「地域とつながることをテーマ」に地域住民を招き、地域住民に向けた健康に関連する企画やバザーなどに加えて、市内の障害者施設のコーヒーショップや患者移送サービス事業所にブースを提供し、施設の広報や事業内容の周知につなげた。テーマに基づき、学生・教職員とも笑顔で楽しむための対応を意識する機会となった。引き続き、ボランティアの依頼を積極的に受け、学校から地域貢献できる機会を発信して「学生が社会を知る機会」をつくっていききたい。</p> <p>今年度は延べ23件の市内高等学校の進学ガイダンスに参加し、職業選択の支援に結び付けた。</p> <p>看護教員の力を活かした地域貢献としては、静岡市立清水病院の院内研究指導が継続して行われている。昨年度に引き続き新人看護職員実地指導研修コーディネーターを担った。新たに看護協会主催の専任教員養成講習会の演習支援や教育実習の受け入れ、専任教員継続研修の企画運営委員を担い、実習施設のひとつであるは一とばる運営委員会</p>	<p>学生・教員とも積極的に地域の活動に参加している取り組みを評価する。ボランティア活動の参加者より看護学生の主体的活動を評価した声があった。主たる実習病院も地域に根差した病院を目指しており、地域に貢献する考えをもち行動する力が育つことは将来にも役立つ。引き続き、いろいろな分野で相手を思い行動する姿勢や社会性を育むボランティア活動を勧めて欲しい。</p>

	<p>に出席、1つの高校のマラソン大会に救護として参加した。教員の中にはライフワークとして小中学校生に向けたいのちの授業の活動を行っている。清水病院や近隣施設にモデル人形等備品の貸出し、歯科衛生研修の基礎看護学実習室利用に協力した。その際には、主催者の趣旨を確認し、沿うように関わった。このように、引き続き看護教員の力や施設を活かした地域貢献を行っていく。</p>	
(11) 国際交流	<p>看護学科では、昨年度より1年次老年看護学概論において、多職種連携の授業が始まっている。その中で、外国籍の学生が在籍している福祉系の専門学校と協同授業を行っている。これまではコロナ禍にあり受け入れが制限されていたが、5月より5類へ移行し、外国人留学生の門戸も再び開かれている。今後、外国人留学生の在籍状況を見ながら国際交流を図れる機会を取り入れていきたい。</p> <p>また、キャリアデザインという授業の中で、日本と海外を行き来し看護師を続けている卒業生を講師に招き授業を行ったり、JICA 経験のある卒業生の体験談を国際情報論の講義で話してもらったりと、看護師の活動の多様性を学ぶ機会も得た。</p> <p>12月の講演会では、開発途上国の原料や製品を適正な価格で取引したフェアトレードショップを運営する Teebom の今井氏に講演いただき、途上国の現状と輸出入における諸問題を学んだ。</p> <p>助産学科では、すべての実習病院で外国籍妊産婦の出産に立ち会う機会があり、異文化看護の必要性を肌で学んでいる。9月には助産院で、10月には講義において、それぞれ海外での助産経験のある方から現地での活動の様子を学び、学生たちは言葉が通じない妊産婦への対応、宗教や価値観の違いに配慮することなど、実習中の関わりに活かしていた。</p>	<p>学生が、国際情勢に興味・関心をもつための国際交流や講義など、様々な取り組みをしていることを評価する。</p> <p>学習成果が国内外で評価されるよう、ホームページ等活用して欲しい。</p> <p>国際的な学会や交流会等に参加するなど発展していきとよい。</p>
(12) 教育力の向上	<p>新たな実習施設や、教員が初めて担当する実習領域で臨床研修を実施した。助産学科では、4名の教員が県立総合病院で臨床研修を実施、看護学科では、清水駿府病院、蒲原病院、山の上病院、訪問看護ステーション駿河、心身障害児福祉センターいこいの家にて、延べ7名の教員が臨床研修を実施した。また、教員は長期休暇中や隙間時間を活用してオンラインでの研修会に参加した。研修で得た学びを実習指導や授業作りに反映させることができた。</p> <p>看護学科では年間10回の学習会を計画し予定通り実施した。本校の倫理指針の見直しを中心に、実習の学生指導において生じた倫理的な葛藤について倫理分析を行った。清水病</p>	<p>倫理が育つさまざまな取り組みの実践を評価する。倫理的判断とそれを実際の行動に結びつけるのは難しく、実習はその力を育むよい機会である。初めて遭遇した時には倫理的葛藤を生じるが、繰り返す中でその葛藤が薄れやすい。その時々でリフレクションを重ねて欲しい。</p>

	<p>院での臨床指導者委員会内でも事例検討会を行い、インシデント発生時の学生・臨床指導者・教師で生じている認識を理解しあうことができた。助産学科では2月に開催する実習指導者会議を対面で実施するため、改めて倫理的な課題等について情報を得ていく。年間を通した学習会では両学科で倫理について角度を変えながら考えることができた。今後は学校の倫理指針変更に向け、両学科での検討会を開き、内容整理を図っていく。</p> <p>今年度は、専任教員養成講習会に2名の教員が参加した。講習会で学習した内容を取り入れ、シミュレーターを活用したシナリオワークとして、今年度、分娩介助件数の少なかった学生を中心に演習を行った。次年度のカリキュラム運営につなげていきたい。また、講師会議では、新たな教育として「今の子ども像とその関わり方」をテーマに、学生理解を深めることができるよう講師に対し研修報告を行った。</p> <p>両学科で会議をもつ時間は得づらいが、職員室をひとつとしたことで、互いの動きを把握しやすくなり、学年担当や実習調整など担当役割間での相談や情報共有を図りやすくなった。適宜変更が必要となる感染症マニュアルについては、互いの状況を理解しあいながら点検・修正ができており、両学科で協力しながら教育活動を行えている。</p>	
--	---	--

【次年度の取り組みへの示唆】

- 1) 学習しやすく働きやすい環境整備
- 2) 多様な価値観をもつ学生の社会性および職業としての倫理を育む関わり
- 3) 2学科あるよさを活かした本校の魅力を学生・教職員ともに地域に発信

【令和5年度学校関係者評価会議】

開催日 第1回：令和5年10月12日（木）15時30分～16時30分

第2回：令和6年3月14日（木）15時30分～16時30分

委員長 水谷美由紀（静岡市立清水病院看護部長）

委員 櫻井郁子（公益社団法人静岡県看護協会常務理事）

委員 渡邊昌子（静岡県訪問看護ステーション協議会会長）

委員 塚本尚代（静岡市立清水看護専門学校後援会長）

事務局

上牧 務（校長）佐野繁子（副校長）志田訓広（事務長）池村さおり（助産学科教務長）

和田 愛（看護学科教務長）加茂川将美（教務主幹）山本智美（看護教師）